

第 33 回基準諮問会議

2018年7月23日、財務会計基準機構（FASF）において第33回基準諮問会議（議長 湯浅一生 富士通(株) 執行役員常務）が開催され、審議が行われました。詳細については、財務会計基準機構ホームページ（https://www.asb.or.jp/jp/project/standards_advisory.html）において「議事概要」を公開していますのでご覧ください。

（審議事項）

1. テーマ提言について

基準諮問会議事務局より、前回までの基準諮問会議において市場関係者より提案されたテーマのうち、『『経営者が会計方針を適用する過程で行った判断』及び『見積りの不確実性の発生要因』に関する注記情報の充実』については、企業会計基準委員会（ASBJ）のディスクロージャー専門委員会における検討状況の中間報告を行う旨が説明され、川西ディスクロージャー専門委員会委員長より、検討状況の説明がなされた。審議において出された基準諮問会議委員の意見を受け、議長より、ASBJのディスクロージャー専門委員会に引き続き検討を依頼する旨の発言がなされた。

また、基準諮問会議事務局より、前回までの基準諮問会議において市場関係者より提案されたテーマのうち、「会計制度委員会報告第14号『金融商品会計に関する実務指針』における当座貸越契約及び貸出コミットメントに関する規定の改正」については、実務対応専門委員会のテーマ評価の結果を踏まえ、ASBJの新規テーマとして採り上げるには至らないとして、「過去に審議を行ったが提言に至らなかったテーマ」として取り扱うことを提案する旨の説明がなされ、審議の結果、「過去に審議を行ったが提言に至らなかったテーマ」として取り扱うこととなった。

2. ASBJの最近の活動状況について

ASBJ小野委員長から、日本基準を国際的に整合させる取組みを中心に、ASBJの最近の活動状況についての報告が行われた。基準諮問会議委員より、公正価値表示及び開示、リースに関する取組みに対する意見が出された。